

# 自然遊学館 だより



**アキアミ *Acetes japonicus***

サクラエビ科アキアミ属。体長2cmほどの細長いほぼ透明の体で、尻尾の付け根に赤色点があります。内湾の浅海産で、食用のほか、釣り餌、養魚の飼料に利用されます。2019年4月4日および22日、二色の浜突堤横のアマモ場で群泳しているのが確認されました。貝塚市の海岸では初めての記録です。

**2019 SUMMER**

**No.92**

**2019.8.16 発行 貝塚市立自然遊学館**

## 目 次

### \*ネイチャーレポート

私達の身近に潜む爬虫類たち……………奥田大介…1

何を今更なアマガエルの話……………岩崎拓…2

### \*行事レポート

海辺の植物観察会（近木川河口干潟）  
……………白木江都子・湯浅幸子…3

渚の生きもの……………山田浩二…5

二色の浜稚魚放流……………澤田智子…7

### \*泉州生きもの情報

男里川河口で採集されたシロウオ……………山田浩二…8

フタガタハラブトハナアブ……………岩崎拓…9

### \*館長コーナー

ボランティア調査と和泉葛城山のブナ林  
……………高橋寛幸…9

### \*調査速報

貝塚市二色の浜と近木川周辺の鳥調査13  
……………鈴木勝也…11

### \*ホームページ

自然遊学館 HP-昆虫2……………岩崎拓…12

\*寄贈標本……………14

\*スタッフ日誌……………19

## ◆ ネイチャーリポート

### 私達の身近に潜む爬虫類たち

私達が日々生活している街のあらゆる場所に爬虫類は生息しています。例えば田んぼや畑、石垣や学校のグラウンドといったありとあらゆる場所に爬虫類だけではなく、多くの種の生物が集まってきます。水があり、隠れ家があり、餌があればそこに爬虫類を含む生き物たちが集まってくると私は考えています (図 1)。

そしてなぜ今回私が爬虫類をピックアップしたのかというと、ただ単に私は爬虫類が大好きだからです。しかし悲しいことに世間ではあまり爬虫類に対する風当たりが良くありません。無理に爬虫類を好きになってほしいとは考えてはいません。ただ少しだけでよいので爬虫類に対する見方を変えて欲しいだけなのです。何も知らないで怖がるよりは対処法を知り、適切に対処するのとでは大きく結果は変わります。

第1の前提として爬虫類から人に襲いかかることはありません。絶対にです。人側から爬虫類に過剰に接近した時のみ彼らは人に反撃してきます。トカゲは無害なので今回は蛇に対する対処法を書いていきます。基本的に道端や山で蛇に出くわした場合は近づかないでそっとしておいてください。ほとんどの場合は蛇の方から逃げていきます。そして一番気をつけなければ行けないのは屋外で、木の板や大きな石、畑などによく置いてある鉄板やビニールなどを動かす際には特に注意してください。そういった物の中にはマムシ (図 2)

と呼ばれる毒ヘビがよく身を休めています。ですので木の棒や長靴などで物を一度退かし安全を確かめてから、手で動かすようにしたら毒ヘビとの接触は避けることができます。



図 1. 爬虫類の好む生息環境

毒がある蛇もない蛇も、自然界の中のバランスを支える大切な役割をもっています。蛇を含む自然界の中にいる生き物のバランスがどれか一つでも崩れると、めぐりめぐって私達人にかえってきます。しかし放置すれば人や農作物に被害がでてしまうといった場合は駆除も必要です。どうかこれを読んだ皆様は街中や山で蛇のみに関わらず、生き物に出会った際は何か目的がなければ、そっとしておいてあげてください。



図 2. マムシ

(貝塚市王子 奥田 大介)

## 何を今更なアマガエルの話

アマガエルを知らない人はほとんどいないでしょう。時々、青いアマガエルが新聞に載ったりしますが、今回の話はそういう珍しい話ではありません。トノサマガエルやウシガエルよりは水中や水辺にすることが少なく、陸上生活（乾燥）に比較的適応し、tree frog と言われる仲間に入ります。

5月のある日、鳴く様子を動画にでも撮ろうかと思って、デジカメを向けていると、鳴く気がなくなったらしく、喉袋を引っ込めてしまいました。それで、いきなり左後脚を左前脚の脇に入れ（図1、ventral and lateral wipe）、そこから左腹をなでるように擦り付け、左前脚を耳の後ろから頭部左側に前方に擦り付け（図2、head wipe）、それらの一連の行動を右側でも1回行いました。そしてゲップみたいなことを繰り返して、再び head wipe を行いました。1回目の head wipe の際には、白濁した粘り気のある液体が眼を覆い、2回目の head wipe でそれをぬぐい取りました。その液体は脂質を含んだものだと思います。



図1. 脇をふきふき  
(Ventral and lateral wipe)



図2. 頭をふきふき  
(Head wipe)

\* Barbeau and Lillywhite (2005) には、ふつうは Head wipe が先だと書かれています。

体表面の手入れであることは間違いなさそうですが、一応、文献を当たると、Body wiping behavior（体ふき行動）という用語があることが分かりました。ニホンアマガエル *Hyla japonica* と同属の6種を含む数種で観察を行った Barbeau and Lillywhite (2005) によると、皮膚にある腺から分泌した脂質（lipid）を体表面に塗って水分の蒸発を防いでいるそうです。脂質というのは水をはじく性質があるからです。「何を今更シリーズ」で毎回書いているように、知らないことはまだまだあります。この論文では、もっと乾燥した環境にすむ種は、より複雑で丁寧な体ふき行動をとると書かれていました。別の種では日除けクリーム（sun cream）の役割があるのだという説明をしているBBCの動画もありましたが、真偽のほどは分かりません。

アマガエルがまず腹に脂質を塗ったのはなぜか、カエルは、口からではなく腹から水分を体内に取り入れる（出し入れする）からです。腹の表面が体内の水分調整に重要な役割を果たしているのです。口は食物を食べるために使い、口から水を飲まない

そうです。たいていの図鑑に書かれているのに、これまで知らないで生きてきました。

事の発端となった遊学館で飼育しているアマガエルの動画を、例のごとくYouTube にアップしたので、気が向いたら見てやってください。BBC 制作のアッテンボロー博士が解説する美しく面白い動画もすぐに見られるようにしています。



図 1. 川岸の植物を観察

### 参考文献・サイト

- 『山溪ハンディ図鑑 9 日本のカエル+サンショウウオ類』(写真/松橋利光、解説/奥山風太郎)、山と溪谷社、2002年発行
- Barbeau, T. R. and H. B. Lillywhite (2005) Body wiping behaviors associated with cutaneous lipids in hylid tree frogs of Florida. *The Journal of Experimental Biology* 208: 2147-2156.
- アマガエル Body wiping (自然遊学館)  
<https://www.youtube.com/watch?v=qaIy7ZA1V0o>
- Frog applies 'sun cream' - Natural World: Attenborough's Fabulous Frogs - BBC Two  
<https://www.youtube.com/watch?v=z16ndVyJGBQ>

(岩崎 拓)

## 行事レポート

### 海辺の植物観察会—近木川河口干潟

日時：2019年4月20日(土)10:00~11:30

場所：近木川右岸と右岸干潟

参加者：9人

近木川河口、汽水ワンドの近くにある水門にスタッフがハシゴを取り付けてくれて、川岸に降りました。汽水域だけあって、川岸に海岸植物がチラホラ見えたので、植物を見て行くことにしました(図1)。

海岸植物ではないけれど、最初に目についたのは、燃えるような赤い芽を吹いた、高さ1mぐらいのアカメガシワでした。アカメガシワの根元に花を咲かせ始めた小さなツルナが生えていて、その先のあちこちには、既に花が幾つも咲いている大株ツルナ(図2)が見えました。どの葉も食用に適した柔らかさでした。



図 2. ツルナ

ノイバラは葉がよく茂り、近日中に花が咲きそうでしたが、ノイバラにはイバラヒゲナガアブラムシが出現すると教わりました。ノイバラの茂みに小さいハマウド(図3)が見えたので紹介しましたが、更に先に行くと個体が大きく立派になっていき、ところが干潟に着くと全く見られなくなりました。



図 3. ハマウド



図 4. ハマボウフウ

観察中に、大きな澄んだ響りが聞こえ、周辺を探すと近くの岸壁にイソヒヨドリがいました。背の青とお腹の赤茶色がきれいに見える場所に留まってくれたので、しっかり観察できました。昔は磯の鳥だったのに、今ではすっかり街でお馴染みになりました。

岸辺を歩いていて二色の浜では比較的珍しい海岸植物、ハマダイコンに出会いました。下見の折には、干潟のテトラポット間に1個体だけ頼りなげに生えていましたが、岸辺の擁壁側には、逞しく立派なものが5個体ありました。

干潟に入り込んで最初に出会った海岸植物はハマボウフウ（図 4）でした。真っ白な花を咲かせ、食用になる深緑の葉と、赤い茎の3色が美しいコントラストをなしていました。海辺に近い砂浜にはほぼ1m間隔で見つかります。

群落はなしていないものの、ナルトサワギクがあちこちに生えていて、特定外来種だけに残念。ハマヒルガオの葉が一面に広がって、今月末には一面のお花畑でしょう。

お天気がいいのに朝から風が強くて、参加者の小学2年生男子は寒い寒いと震えていたので、見るべき海岸植物を観察したことでもあり、早めに解散しようと思いましたが、大阪市立自然史博物館発行のミニガイドNo.30「瀬戸内海の家浜植物」に、瀬戸内海各地で野生化していて、今後増える可能性があるとして取り上げられていたウチワサボテン類を、下見の時に確認していたので見てもらいました。擁壁ギリギリの場所に生えているのはどこの海岸でも同じですが、台風時に痛めつけられたのか、傷だらけの立ち姿でした。

**2019. 03. 22 下見時の出現植物**

- ハマヒルガオ（ヒルガオ科）
- タガラシ（キンボウゲ科）
- カタバミ（カタバミ科）
- ツルナ（ツルナ科）
- カラスノエンドウ（マメ科）
- スズメノエンドウ（マメ科）
- ウマゴヤシ（マメ科）
- セイヨウカラシナ（アブラナ科）
- タネツケバナ（アブラナ科）
- ナガバギシギシ（タデ科）
- オヤブジラミ（セリ科）
- ハマボウフウ（セリ科）

コマツヨイグサ（アカバナ科）  
メマツヨイグサ（アカバナ科）  
オランダミナグサ（ナデシコ科）  
ヨモギ（キク科）  
ナルトサワギク（キク科）  
ハルノノゲシ（キク科）  
ヒメジョオン（キク科）  
スイセン（ヒガンバナ科）  
ハマオモト（ヒガンバナ科）  
ネズミホソムギ（イネ科）  
セイバンモロコシ（イネ科）  
ヨシ（イネ科）  
ウチワサボテン類  
ランタナ（クマツヅラ科）  
アキニレ（ニレ科）  
アカマツ（マツ科）  
クスノキ（クスノキ科）  
クコ（ナス科）  
アカメガシワ（トウダイグサ科）  
シャリンバイ（バラ科）  
ノイバラ（バラ科）  
モモ（バラ科）  
トベラ（トベラ科）

（白木 江都子・湯浅 幸子）

## 渚の生きもの

日時：2019年5月19日（日）13:00～15:30

場所：近木川河口

参加者：67人（うちスタッフ13人）

令和時代が始まって最初の観察会となりました。満月の大潮にあたるこの日はお昼13時過ぎに干潮の時刻を迎え、近木川河口に広い前浜が広がる中での開催でした。浜には例年に増して砂が堆積し、一部は砂浜化した環境になっています。

前半は1時間余り、自由採集でタモ網やスコップを用いて参加者各自で生きものを採集しました（図1）。講師として魚に詳しい方、貝に詳しいお二方も一緒に採集して頂いたこともあり、多くの生きものの種類が集まりました（表1）。特に砂質の干潟

を好むコメツキガニが今回は多く見られ（図2）、所どころでオスがウェービングと呼ばれるハサミ振りをしていました。



図1. 近木川河口で生きものを探す



図2. コメツキガニ

後半はミニ地曳網を行いました。浜から50mほど網を冲出した後、参加者全員で幅15mの網を引っ張り、捕れたものを探します。アナアオサの海藻に混じって、時おり小魚の魚鱗のきらめきが見つかり、子供たちは宝探しのように魚を見つけていきました（図3）。ボラの幼魚が一番たくさん捕れましたが、次いでトウゴロウイワシ（図4）が多かったです。トウゴロウイワシ類はその名前からもイワシ類と間違わ

れることが多いですが、背ビレが2つあることなどの体の特徴はボラ類に似ています。地曳網は2回行い、魚類11種、甲殻類3種が記録されました(表2)。

表1. 近木川河口で観察した海岸動物 (地曳網除く) 2019/5/19

グループ	和名
刺胞動物門	花虫綱 タテジマイソギンチャク科 <b>タテジマイソギンチャク</b>
	ウメボシソギンチャク科 <b>イシワケイソギンチャク</b>
扁形動物門	渦虫綱 ヒラムシ類 <b>ヒラムシ類</b>
軟体動物門	多板綱 クサズリガイ科 <b>ヒザラガイ</b>
	腹足綱 ヨメガカサガイ科 <b>マツバガイ</b>
	<b>ヨメガカサ</b>
	ユキノカサガイ科 <b>ウノアン</b>
	ニシキウスガイ科 <b>イシダタミ</b>
	アマオブネガイ科 <b>イシマキガイ</b>
	ウミナナ科 <b>ウミナナ</b>
	タマキビガイ科 <b>タマキビ</b>
	<b>アラレタマキビ</b>
	<b>マルウスラタマキビ</b>
	ムカデガイ科 <b>オオヘビガイ</b>
	タマガイ科 <b>ツメタガイ</b>
	アツキガイ科 <b>イボニシ</b>
	ムシロガイ科 <b>アラムシロ</b>
	トウガタガイ科 <b>カキウラクチケレガイモドキ</b>
	カラマツガイ科 <b>カラマツガイ</b>
	<b>キクノハナガイ</b>
	アメフラシ科 <b>アマクサアメフラシ</b>
	<b>アメフラシ</b>
二枚貝綱	フネガイ科 <b>カリガネガイ</b>
	イガイ科 <b>コウロエンカワヒバリガイ</b>
	<b>ホトギスガイ</b>
	イタボガキ科 <b>マガキ</b>
	<b>ケガキ</b>
	バカガイ科 <b>バカガイ</b>
	チドリマスオ科 <b>クチバガイ</b>
	マルスダレガイ科 <b>アサリ</b>
	イワホリガイ科 <b>セミアサリ</b>
	ゴカイ科 <b>スナイソゴカイ</b>
	チロリ科 <b>チロリ科</b>
	ヨコエビ類 <b>ヨコエビ類</b>
ワレカラ科 <b>トゲワレカラ</b>	
テナガエビ科 <b>スジエビモドキ</b>	
<b>ユビナガスジエビ</b>	
エビジャコ科 <b>エビジャコ属</b>	
ホンヤドカリ科 <b>ユビナガホンヤドカリ</b>	
コブシガニ科 <b>マメコブシガニ</b>	
ガザミ科 <b>チチュウカイミドリガニ</b>	
モクスガニ科 <b>モクスガニ</b>	
<b>ケフサイソガニ</b>	
<b>タカノケフサイソガニ</b>	
<b>ヒライソガニ</b>	
<b>ケアシヒライソガニ (仮称)</b>	
スナガニ科 <b>スナガニ</b>	
コメツキガニ科 <b>コメツキガニ</b>	
昆虫綱	キリギリス科 <b>ヒメギス</b>
	バッタ科 <b>クルマバッタモドキ</b>
	ハサミムシ科 <b>ハマベハサミムシ</b>
	ハネカクシ科 <b>ウミベアカバハネカクシ</b>
	テントウムシ科 <b>ナミテントウ</b>
	ゴムシダマシ科 <b>オオスナゴムシダマシ</b>
	アリ科 <b>オオズアリ</b>
脊索動物門	軟骨魚綱 アカエイ科 <b>アカエイ</b>
硬骨魚綱	ボラ科 <b>ボラ</b>
	ハゼ科 <b>ミミズハゼ属</b>
	<b>ドロメ</b>
	<b>ヒメハゼ</b>

同定者: 日下部敬之(魚類)、児嶋裕・大古場正(貝類)、岩崎拓(昆虫)、山田浩二(その他)



図3. 地曳網に掛かった魚を探す

表2. 近木川河口地曳網 (網入れ2回) 2019年5月19日

グループ	目	科	和名	個体数
魚類	ナマス目	ゴンズイ科	ゴンズイ	1
		ボラ目	ボラ科	ボラ
	トウゴロウイワシ目	トウゴロウイワシ科	トウゴロウイワシ	11
	カサゴ目	フサカサゴ科	ムラソイ	1
		カジカ科	サラサカジカ	3
			アナハゼ	4
	スズキ目	タイ科	クロダイ	1
		ウミタナゴ科	ウミタナゴ属	1
		ハゼ科	ウキゴリ属	1
			ヒメハゼ	1
フグ目	フグ科	ヒガンフグ	2	
甲殻類	十脚目	テナガエビ科	スジエビモドキ	10
			ユビナガスジエビ	5
		モクスガニ科	モクスガニ	1

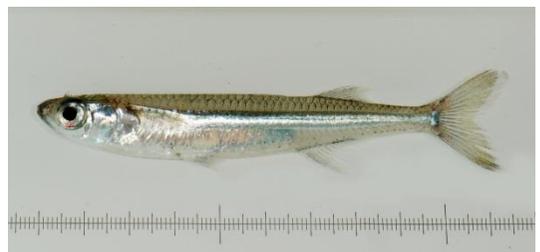


図4. トウゴロウイワシ 全長 10 cm

(山田 浩二)

## 二色の浜稚魚放流

日時：2019年6月22日(土)13:00～14:00

場所：二色の浜

参加者：37人(子供20人)

協力：NPO 法人大阪府海域美化安全協会

この行事は、大阪漁業振興基金栽培事業場より提供いただいたヒラメの稚魚をみんなの手で海に放流してあげる毎年恒例の人気行事です。

最初に砂浜のクリーン活動を30分程行います。クリーン活動前には、砂浜はずでに清掃されたように綺麗に見えましたが、40人近い人数がゴミ袋片手に散らばると「こんなにゴミあったの?」と声のでるほどたくさんのゴミが集まりました(図1、2)。



図1. 二色の浜でゴミを探す



図2. 集まったゴミ

次にメインの「稚魚放流」です。栽培事業場長の米田氏が、「ヒラメの生態」や「ヒラメとカレイの見分け方」など、子供たちにも分かりやすく、そして面白くお話しくださいました(図3)。



図3. 栽培事業場長さんのお話

子供たちは大人しくお話をききながらも、目の前のヒラメたちに興味津々でソワソワしていました(図4)。

そのソワソワがMAXになったころ、放流作業スタートです!



図4. ヒラメを前にソワソワする子供たち

 泉州生きもの情報

**男里川下流で採集されたシロウオ**



**図5. バケツに入れたヒラメの稚魚**

「バケツに入れるのは1回3~5匹までにしてね」というお約束をちゃんと守って、子供たちはヒラメをすくっていました(図5)。

放流するときは、できるだけ波に影響されない深さのあるところで放してほしいのですが・・・ヒラメが足にあたるのが怖いのか、波打ち際よりだいぶ手前でバケツをひっくり返しちゃう子もいました。



**図6. ヒラメの稚魚を放流**

「大きくなってね」と優しい言葉をかけながら、ヒラメを放してくれる子供たちの姿に心洗われる思いがした時間でした(図6)。

(澤田 智子)

シロウオ *Leucopsarion petersii* は、北海道から九州の沿岸海域に生息する透明で細長い体をした体長5cmほどのハゼ科の魚類です。川の水が温み始める春先、産卵のため遡上するシロウオを四つ手網で漁獲するシロウオ漁は日本各地で春の風物詩となっています。食用として、生きたシロウオを酢醬油で食べる「踊り食い」などで賞味されます。近隣では和歌山県の湯浅町や広川町で、ひと昔前まで大量に漁獲されていたようです。

2019年5月4日、男里川の下流で行われた「自然と本の会」主催の観察会で、1匹のシロウオが採集され、当館に持ち込まれました。元気に泳ぐ生体で、全長は4.2cmでした。シロウオは遡河回遊魚ですので、男里川を遡上してきたと考えられます。大阪府下での本種の採集は珍しく、大阪府立環境農林水産総合研究所のHPでも府内には生息記録がない魚として紹介されています。水のきれいな沿岸を遊泳し、川を遡上するシロウオにとって、大阪の南部沿岸はその生息条件を満たすようになってきたのかもしれませんが、そんな期待を抱きながら、今後の出現動向を見守っていきたいと思います。

シロウオは河川環境や沿岸環境の変化にともない全国的に漁獲量の減少が見られ、2014年の環境省レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されました。なお、本採集個体は登録標本(KCMN-P477)として保管しました。



図 1. シロウオ 全長 4.2cm  
(男里川下流、2019年5月4日採集)

(山田 浩二)

## フタガタハラブトハナアブ

2019年6月18日、鳥類調査で訪れた和泉葛城山の山頂の木柵上で、これまで見たことがない大型のハナアブを見つけました。本誌73号に「ハナアブ科2種の観察例」のタイトルで書いたように、欲張って写真と標本の両方を得ようとして、撮影後に逃げられたことを思い出し、まず採集を先にしました。写真は翌日に館内で撮影したものです(図1)。このタイガース模様は、ハチ類に擬態したものかもしれません。フタガタハラブトハナアブ *Mallota dimorpha* のオス成虫は、胸部と腹部にある黒色の帯が特徴です。本誌73号発行時は37種だった貝塚市産ハナアブ科標本は、その後の採集と森康貴さんの同定により44種に増えています(同定を属で留めたものは省いた値です)。



図 1. フタガタハラブトハナアブ (♂)  
体長 16mm

### 引用・参考文献

- 岩崎 拓 (2014) ハナアブ科2種の観察. 自然遊学館だより No. 73: 14. (撮影した後に逃げられたシロスジナガハナアブ *Milesia undulata* は、上記の44種に含めていません)
- 竹内正人 (2009) 『双翅目談話会研究資料 (3) 写真集 ハナアブ 300』. 双翅目談話会、300pp.

(岩崎 拓)

### 館長コーナー

## ボランティア調査と和泉葛城山のブナ林

一昨年から、当館ではボランティアによる調査を行っています。以下にその活動の様子を紹介します。

### 海につながる川の調査

- ・4月～5月と9月～10月  
近木川のアユ調査 (近木川下流域)
- ・6月～7月  
ホテルの寢床調査 (蕎原地区)
- ・8月  
アマモ場の調査 (二色の浜)
- ・11月～3月  
プランクトン調査と漂着物調査 (近木川河口と二色の浜)

12月末から2月の真冬の時期は、寒さの影響を考え、定期的な調査を控えました。

これらの調査により、普段あまり意識しない生きものや水環境（プランクトンや水質、浜辺への漂着物）のことに気づきました。また、近木川には思った以上に生きものが多く棲むことが分かりました。



2018年11月4日 二色の浜プランクトン調査



2019年5月4日 近木川アユ調査



2019年7月6日 近木川アユ調査



2019年6月1日 蕎原地区ホタルの寝床調査

この他にも当館では、希望者を募集して以下の調査活動も行っています。

毎月第2金曜日

千石荘の昆虫調査

11月～3月毎月第1土曜日

二色の浜ビーチコーミング（漂着物調べ）

調査はすべて自由参加ですが、事前の申し込みをしていただいています。

調査に興味のある方、一緒に観察調査活動をしませんか？興味のある方は是非当館までお知らせください。

### 和泉葛城山のブナ林について

夏期特別展『上久保文貴 植物標本コレクション』の中で、和泉葛城山のブナ林の紹介をしています。

和泉葛城山の山頂付近には国の天然記念物に指定されているブナ林があることはご存知でしょうか？

大正12年に国の天然記念物に指定された和泉葛城山のブナ林は、登山道を山頂に至る途中、標高635m付近にその入り口があり、看板が設置されています。

**調査速報**

**貝塚市二色の浜と  
近木川周辺の鳥調査 13**

毎年4月中旬になるとツバメが二色の浜や近木川河口に巣材を集めに来るのを確認することが出来ます。また、市民の森ではツバメの巣を作っているのを確認することもできます。



ブナ林看板 2018年6月5日撮影

登山者はここからブナ林を潜り抜け山頂に到着します。

そのブナ林のことを簡単に紹介しています。9月初めには夏期特別展は終了しますが、ブナ林紹介のコーナーは10月まで設置される予定です。

興味のある方は是非当館までお越しください。



2019年7月20日 ブナ幹標本の展示

(高橋 寛幸)

二色の浜公園周辺において2019年4月～6月に観察された鳥類						
目	科	種	4月 17日	5月 22日	6月 26日	
カモ目	カモ科	ヒドリガモ	○			
		カルガモ	○	○		
ハト目	ハト科	キジバト	○	○	○	
		ドバト	○	○	○	
カツオドリ目	ウ科	カワウ	○	○	○	
ペリカン目	サギ科	アオサギ	○	○	○	
		ダイサギ		○	○	
		コサギ	○	○	○	
チドリ目	チドリ科	ケリ	○	○		
		コチドリ	○			
		シロチドリ	○	○	○	
		メダイチドリ	○			
		シギ科	チュウシャクシギ		○	
			アオアシシギ	○		
			ソリハシシギ		○	
			キョウジョシギ	○		
		カモメ科	オバシギ		○	
			ユリカモメ	○		
ウミネコ				○		
キツツキ目	キツツキ科	コゲラ			○	
スズメ目	カラス科	ハシボソガラス	○	○	○	
		ハシブトガラス		○		
	ヒバリ科	ヒバリ	○	○	○	
	ツバメ科	ツバメ	○	○	○	
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ		○		
	ムクドリ科	ムクドリ	○	○	○	
	ツグミ科	ツグミ	○			
		イソヒヨドリ	○	○	○	
	スズメ科	スズメ	○	○	○	
	セキレイ科	ハクセキレイ	○	○	○	
	アトリ科	カワラヒワ	○		○	
	ホオジロ科	アオジ	○			
	種数			24	21	18



ツバメ

(二色の浜公園、2019年4月17日)

 ホームページ

**自然遊学館 HP—昆虫 2**

自然遊学館 HP の貝塚市の昆虫ページ作成のために、前号ではカマキリ目をまとめました。今回はカゲロウ目とカワゲラ目です。どちらも幼虫は水生で、成虫になると陸生になります。不完全変態で、蛹の期間はありません。昆虫の系統 (= 進化の順序) で言えば、カゲロウ目はトンボ目に近く、成虫の翅のたたみ方が背側で合わせるだけの旧翅類に含まれます (図 1、2)。

近木川河口周辺において2019年4月～6月に観察された鳥類			4月	5月	6月	
目	科	種	3日	1日	12日	
カモ目	カモ科	ヒドリガモ	○			
		カルガモ	○	○	○	
		コガモ	○	○		
ハト目	ハト科	キジバト	○	○	○	
		ドバト	○	○	○	
カツオドリ目	ウ科	カワウ	○	○	○	
ペリカン目	サギ科	ゴイスギ			○	
		アオサギ		○	○	
		ダイサギ	○	○		
		コサギ	○	○	○	
ツル目	クイナ科	オオバン	○	○	○	
チドリ目	チドリ科	ケリ	○			
		ムナグロ		○		
		コチドリ	○	○	○	
		シロチドリ	○		○	
		チュウシャクシギ		○		
		キアシシギ		○		
		タカ目	タカ科	トビ	○	
スズメ目	モズ科	モズ	○			
	カラス科	ハシボソガラス	○	○	○	
		ハシブソガラス	○			
	ツバメ科	ツバメ	○	○	○	
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○	
	ムクドリ科	ムクドリ	○	○	○	
	ヒタキ科	シロハラ	○			
		ツグミ	○			
		イソヒヨドリ	○	○		
	スズメ科	スズメ	○	○	○	
	セキレイ科	ハクセキレイ	○		○	
		セグロセキレイ	○		○	
	アトリ科	カワラヒワ	○	○	○	
	種数			25	19	18



図 1. ナミヒラタカゲロウの幼虫



カルガモ親子  
(近木川河口、2019年6月12日)

(鈴子 勝也)



図 2. ナミヒラタカゲロウの成虫

それに対して、カワゲラ目はバッタ目やカマキリ目などを含む直翅類に近く、翅を背の上でねじりながら折りたたむように収納できる新翅類に属します (図 3、4)。



図 3. オオヤマカワゲラ属の幼虫



図 4. クラカケカワゲラ属の成虫

自然遊学館では近木川を中心に水生昆虫の調査を行ってきて、その際には水中にいる幼虫を採集しました。カゲロウ目は上流から下流まで種を入れ替えながら生息しているのに対して、カワゲラ目の分布は、ほぼ上流のきれいな水に限られることが分かりました。カゲロウ目はその他、青柳正人氏と共同でライトトラップ調査を行い、成虫を採集しました。また、カワゲラ目の成虫に関しては、他の調査の際にたまたま採集したものを森本静子氏に同定してもらいました。

現在までにカゲロウ目は 11 科 42 種が確認されています。そのリストを以下に示しました。

**トビイロカゲロウ科**

- トゲエラカゲロウ属
- ヒメトビイロカゲロウ
- ナミトビイロカゲロウ

**カワカゲロウ科**

- キイロカワカゲロウ

**モンカゲロウ科**

- フタスジモンカゲロウ
- モンカゲロウ

**ヒメシロカゲロウ科**

- ヒメシロカゲロウ属

**マダラカゲロウ科**

- クロマダラカゲロウ
- オオマダラカゲロウ
- シリナガマダラカゲロウ
- エラブタマダラカゲロウ
- クシヒゲマダラカゲロウ
- フタコブマダラカゲロウ
- ヨシノマダラカゲロウ
- アカマダラカゲロウ

**ヒメフタオカゲロウ科**

- ヒメフタオカゲロウ
- マエグロヒメフタオカゲロウ

**コカゲロウ科**

- フタバコカゲロウ
- ヒュウガコカゲロウ
- シロハラコカゲロウ
- トツカワコカゲロウ
- サホコカゲロウ
- タマリフタバカゲロウ

**ガガンボカゲロウ科**

- ガガンボカゲロウ

**フタオカゲロウ科**

- オオフタオカゲロウ

**チラカゲロウ科**

- チラカゲロウ

**ヒラタカゲロウ科**

- オビカゲロウ
- ミヤマタニガワカゲロウ
- オニヒメタニガワカゲロウ
- キブネタニガワカゲロウ
- ヒメタニガワカゲロウ
- クロタニガワカゲロウ
- シロタニガワカゲロウ
- トラタニガワカゲロウ
- キイロヒラタカゲロウ
- タニヒラタカゲロウ
- ウエノヒラタカゲロウ
- エルモンヒラタカゲロウ
- ユミモンヒラタカゲロウ
- ナミヒラタカゲロウ
- サトキハダヒラタカゲロウ
- キョウトキハダヒラタカゲロウ

カワゲラ目は9科23種が確認されていますが、種まで同定できているものは、ノギカワゲラ、オオヤマカワゲラ、カミムラカワゲラ、オオクラカケカワゲラ、ケフカオナシカワゲラなどわずかなので、リストの掲載はいずれかの機会にゆずりたいと思います。

#### 参考文献・引用文献

- 青柳正人・岩崎拓 (2009) 本谷のカゲロウ類。  
貝塚の自然 11号：93-98。  
青柳正人・岩崎拓 (2010) 東手川のカゲロウ類。  
貝塚の自然 12号：23-28。  
岩崎拓・山田浩二 (2006) 近木川の水生昆虫Ⅷ。  
貝塚の自然 8号：24-77。

(岩崎 拓)

#### 寄贈標本

##### <鳥類>

- ◆福島秀人さんより  
シジュウカラ 死体1点  
貝塚市二色 2019年4月28日採集  
カワラヒロ 死体1点  
貝塚市二色 2019年5月15日採集

##### <爬虫類>

- ◆奥田大介・山口隼平さんより  
ニホントカゲ 生体1点  
貝塚市蕎原 2019年4月27日採集
- ◆奥田大介さんより  
アオダイショウ 生体1点  
貝塚市清見 2019年5月5日採集

##### <魚類>

- ◆川口博さんより  
ハコフグ 打上げ死体1点

貝塚市二色の浜 2019年4月6日採集



ハコフグ (体長約10 cm)

(貝塚市二色の浜打ち上げ、2019年4月6日)  
これまで貝塚市の海岸では、本種の記録がありませんでした。

- ◆河添純子さんより  
アサヒアナハゼ 生体1点  
ムラソイ 生体1点  
ほか3種の幼魚、各1点  
阪南市新町 2019年4月22日採集
  - ◆河野通浩さんより  
シロウオ 生体1点  
男里川河口 2019年5月4日  
阪南市「自然と本の会」観察会時に採集
- ##### <棘皮動物>
- ◆川口博さんより  
イトマキヒトデ 打上げ死体1点  
貝塚市二色の浜 2019年5月12日採集
- ##### <軟体動物>
- ◆川口博さんより  
アメフラシ 打上げ生体5点  
貝塚市二色の浜 2019年4月1日採集
  - ◆河添純子さんより  
スガイ 生体2点  
阪南市新町 2019年4月22日採集

- ◆中原光規さんより  
オトメガサ 生体 1点  
クロシタナシウミウシ 生体 5点  
アオウミウシ 生体 1点  
和歌山市加太 2019年5月3日採集

### <扁形動物>

- ◆中原光規さんより  
ミノヒラムシ 生体 2点  
和歌山市加太 2019年5月3日採集

### <節足動物>

- ◆川口博さんより  
タイワンガザミ 打上げ死体 1点  
貝塚市二色の浜 2019年4月1日採集  
タイワンガザミ 打上げ死体 1点  
貝塚市二色の浜 2019年4月3日採集
- ◆中原光規さんより  
ヒライソガニ 生体 5点  
和歌山市加太 2019年5月3日採集
- ◆森本静子さんより  
ヒメヌマエビ 生体 1点  
男里川河口 2019年5月4日採集
- ◆田村涼香さんより  
モクズガニ 生体 1点  
貝塚市水間 2019年5月28日採集

### <昆虫>

- ◆鈴子佐幸さんより  
ヤリバエ科の一種 幼虫 1  
貝塚市蕎原 2019年2月2日採集



ヤリバエ科の一種の幼虫 (体長約3mm)  
(貝塚市蕎原、2019年2月2日、鈴子佐幸採集)  
これまで自然遊学館には、ヤリバエ科の  
記録・標本がありませんでした。

- ◆常道武士さんより  
アカクビボソハムシ 成虫 1点  
貝塚市澤 2019年4月18日採集  
ニジュウヤホシテントウ 成虫 1点  
貝塚市澤 2019年4月21日採集  
マツカレハ 幼虫 1点  
貝塚市澤 2019年5月14日採集  
ミナミアオカメムシ 幼虫 1点  
ウメエダシヤク 成虫 1点  
貝塚市澤 2019年6月8日採集  
ツマグロヒョウモン 幼虫 1点  
貝塚市澤 2019年6月14日採集  
コフキコガネ属の一種 成虫 1点  
貝塚市澤 2019年6月19日採集
- ◆佐々木龍さんより  
ナナホシテントウ 成虫 1点  
(両鞘翅の後方内側の2点が融合)  
貝塚市脇浜 2019年4月21日採集
- ◆川口博さんより  
ビロウドサシガメ 成虫 1点  
貝塚市二色の浜 2019年5月15日採集  
ビロウドサシガメ 成虫 1点  
貝塚市二色の浜 2019年5月31日採集  
アサギマダラ 成虫 1点

貝塚市脇浜 2019年6月14日採集

◆松本文彦さんより

ホシアシブトハバチ 幼虫1点

貝塚市二色 2019年5月25日採集

◆田村涼香さんより

キバネアシブトマキバサシガメ

成虫1点

貝塚市千石荘 2019年6月14日採集

◆山路登葉さんより

ヒラズゲンゼイ 成虫1点

キマワリ 成虫1点

貝塚市千石荘 2019年6月22日

(大橋良子さん採集)



**ヒラズゲンゼイ**

(貝塚市千石荘 2019年6月22日 大橋良子採集)  
素手で触ると水膨れなどの症状がでます。  
ご注意ください。

◆安尾優貴さんより

ムネアカオオクロテントウ 成虫1点

熊取町野田 2019年6月29日採集

<寄贈写真>

◆五藤武史さんより

モンシロチョウのふ化 1枚

飼育 2019年4月7日撮影

◆森本静子さんより

ツチダニ属の一種 2枚

貝塚市二色 2019年4月13日撮影

◆藤村雅志さんより

アカアシシギ 2枚

近木川河口 2019年4月16日撮影



**アカアシシギ**

(近木川河口 2019年4月16日 藤村雅志撮影)  
自然遊学館がまとめてきたリストにない種で、196  
種目の記録となりました。

メダイチドリ 4枚

貝塚市二色の浜 2019年4月18日撮影

ヒラズゲンゼイ 成虫3枚

熊取町久保 2019年6月14日撮影

◆覚野良子さんより

シロバナフデリンドウ 2枚

和泉葛城山 2019年4月7日撮影



**シロバナフデリンドウ**

(和泉葛城山 2019年4月7日 覚野良子撮影)

フウロケマン 2枚

和泉葛城山 2019年4月13日撮影

ウスバヒョウタンボク 1枚  
ウワバミソウ 1枚  
ハクサンハタザオ 1枚  
ヒトリシズカ 1枚  
フウロケマン 2枚  
和泉葛城山 2019年4月20日撮影  
エイザンスミレ 1枚  
ナツトウダイ 1枚  
ミヤマハコベ 1枚  
ほか3枚  
和泉葛城山 2019年4月21日撮影  
アナグマ死体 5枚  
ホタルカズラ 1枚  
貝塚市馬場 2019年4月27日撮影  
キジョラン 1枚  
トリガタハンショウヅル 1枚  
フウロケマン 2枚  
和泉葛城山 2019年4月28日撮影



**フウロケマン**

(和泉葛城山 2019年4月28日 覚野良子撮影)

フウロケマン 2枚  
ウスバヒョウタンボク 1枚  
和泉葛城山 2019年5月2日撮影  
アナグマ 17枚  
ジャニンジン 3枚  
フデリンドウ 3枚  
和泉葛城山 2019年5月3日撮影

キケマン 1枚  
マムシ 1枚  
貝塚市蕎原 2019年5月3日撮影  
シロバナウンゼンツツジ 3枚  
キビタキ 1枚  
和泉葛城山 2019年5月5日撮影  
キアシシギ 2枚  
チュウシャクシギ+キアシシギ 1枚  
貝塚市近木川河口  
2019年5月6日撮影  
ウメガサソウ 2枚  
キバナチゴユリ 1枚  
トリガタハンショウヅル 1枚  
ホウチャクソウ 1枚  
ほか6枚  
和泉葛城山 2019年5月11日撮影  
ウラジロウツギ 2枚  
コバンノキ 1枚  
ミソサザイ幼鳥 1枚  
ほか6枚  
和泉葛城山 2019年5月18日撮影  
カキノハグサ 1枚  
コツクバネウツギ 1枚  
フタリシズカ 1枚  
ユリワサギ 1枚  
ほか7枚  
和泉葛城山 2019年5月23日撮影  
クワガタソウ 6枚  
コガクウツギ 1枚  
ハシリドコロ 1枚  
フデリンドウ 1枚  
ほか11枚  
和泉葛城山 2019年5月25日撮影  
アオイスミレ 1枚  
バイカウツギ 1枚

ニガキ 3枚

ほか2枚

和泉葛城山 2019年6月8日撮影

コモチマンネングサ 1枚

ウメガサソウ 1枚

ホナガタツナミ 1枚

2019年6月22日撮影

ミヤマタゴボウ 1枚

クモキリソウ 1枚

ウスバヒョウタンボク 1枚

ほか6枚

和泉葛城山 2019年6月23日撮影



**ミヤマタゴボウ (ギンレイカ)**

(和泉葛城山 2019年6月23日 覚野良子撮影)

その他、覚野良子さんには、同定用の植物画像や、貝塚市外の昆虫類と鳥類の画像を寄贈していただきました。

◆山口隼平さんより

ツチガエル 2枚

貝塚市大川 2019年4月30日撮影

◆食野俊男さんより

キジバト 番いと巢1枚

貝塚市近木 2019年6月16日撮影

◆川口博さんより

ヒヨドリ 巢とヒナ1枚

貝塚市二色 2019年6月21日撮影

<目撃情報>

◆食野俊男さんより

ツマキチョウ 成虫1点

貝塚市半田 2019年4月5日目撃

ナミアゲハ 成虫1点

ツマキチョウ 成虫1点

キタキチョウ 成虫1点

ツマグロヒョウモン 成虫1点

テングチョウ 成虫1点

ツバメシジミ 成虫1点

コツバメ 成虫1点

貝塚市半田 2019年4月5日目撃

◆川口博さんより

カワウ 打上げ死体1点

貝塚市二色の浜 2019年4月5日目撃

<展示用>

◆溝端孝史さんより

エンマコオロギ 幼虫100点

2019年4月20日寄贈

カイコガ 成虫2点

2019年5月26日寄贈

◆安尾貴弘さんより

シオカラトンボ 幼虫4点

アメリカザリガニ 4点

サカマキガイ 1点

飼育

◆佐々木仁さんより

ナナフシモドキ 幼虫2点

貝塚市千石荘 2019年5月18日採集

◆常道武士さんより

ナミアゲハ 幼虫11点

貝塚人工島 2019年5月27日採集

ニジュウヤホシテントウ 成虫1点

貝塚市澤 2019年5月30日採集

セマダラコガネ 成虫 1 点  
泉佐野市りんくう公園  
2019 年 6 月 14 日採集

◆福島秀人さんより

コクワガタ 成虫 1 点  
貝塚市二色 2019 年 6 月 14 日採集  
クマゼミ 羽化殻 1 点  
貝塚市二色 2019 年 6 月 28 日採集

◆松本文彦さんより

ゴマダラカミキリ 成虫 1 点  
貝塚市二色 2019 年 6 月 19 日採集

## スタッフ日誌

**5月24日**、二色小学校、第五中学校の生徒先生有志と遊学館スタッフ約 40 人で、市営第 5 プールのヤゴ救出作戦を行いました。ギンヤンマ、シオカラトンボ、アカトンボの仲間、約 300 匹を救出しました。遊学館に持ち帰ったものは翌日から羽化しましたが、有志のみなさんの結果はどうだったのでしょうか。今回は前年の秋にギンヤンマ用の産卵仕掛けをしなかったのに多くのギンヤンマの幼虫が採集された初めてのケースとなりました。水底には例年よりもかなり多くの葉が沈んでいて、おそらく昨年 9 月の台風でたくさんの枝葉が水面に飛ばされて浮き、ギンヤンマのメスが産卵したくなる状況が生じていたものと推測されました。(岩・山・澤)

**6月3日**、当館の公用車として、新車（日産バン NV150AD）が届きました!! かつては館専用の公用車などなく、フィールドへ生きもの調査の度に役所本庁へ借りに行っ

ていましたが、そのうち中古の公用車をあてがって頂き、代々使用していました。今回は館の公用車として新車が来ると言われた時は、にわかには信じがたく、ぬか喜びに終わることも覚悟していましたが、本当に来たのです。スタッフ一同、大切に使用させていただきます。(山)

**6月28日**、今年の 1 月に生きものの冬越しについて話をしに行った西幼稚園の園児たちが、今度は質問があるということで、遊学館に来てくれました。カタツムリやカブトムシなどの質問があった中、答えに窮したのがアメリカザリガニの寿命でした。「詳しく知らないけど、5 年ぐらいかな」と答えたのは、かなり大胆な推測でしたが、後で調べると、それ位の寿命のようでした。ただ、「中には 10 年ほど生きるものもいるんじゃないかな」と付け加えたのは言い過ぎで、7~8 年までが相場なようです。(岩)

\* 自然遊学館だよりのバックナンバーは、下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2019 夏号 (No. 92)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色 3 丁目 26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2019. 8. 16

この小冊子は庁内印刷で作成しています。